

校長室だより

ゆうかり通信

第4号 令和5年11月7日(火)

【今こそ読書指導を】

明治生まれの著名な教育学者、森信三先生は、「読書」について次のように述べられています。

『読書によって古人の偉大な心を知り、自己の醜さを知ること。自分の醜さがわかれば他人との衝突はなくなる。』

『義務教育の効果を測るバロメータはないかと尋ねられたら、「教え子たちが、卒業後どれほど本を読む人間になったかどうか、という一点で測ればよいでしょう」と答える。』

『読書指導は、教師の仕事の三大部門の一つ』

ここに、私も共感しています。子供が「読書好き」になることは、将来に向かってよりよく生きる力を身につけたことになると思うからです。

今、私たちを取り巻く環境は、複雑化、多様化しています。様々な情報が氾濫しています。このような中、大事なことを見失わず、かつ、変化に対応しながらよりよく生きていくためには、常に質の高い知識を獲得し、自分をアップデートしていかなければなりません。そのためには、頻繁に本を読むことが必要です。本は、確かな情報をもとに、選び抜かれた言葉で書かれています。体系化された知識が詰まっています。出版されるまでに、いろいろな人の目を通り、何度も修正されています。表現の工夫が施され、分かりやすく、楽しく読むこともできます。言わずもがなですが、インターネットの情報とは、随分質が違います。

様々な研究によって、読書が「記憶力」「思考力」「集中力」「情報処理能力」「共感力」「コミュニケーション力」「創造力」などを鍛えてくれることが分かっているところですが、一方では、読書をすればストレスや不安から解放されるとも言われます。イギリスのある大学で、読書、音楽視聴、1杯のコーヒー、テレビゲーム、散歩、それぞれのストレス解消効果を、心拍数などをもとに検証したそうです。すると、読書は68%、音楽視聴は61%、コーヒーは54%、散歩は42%、テレビゲームは21%のストレス軽減効果がみられたとのことでした。読書をすると心が落ち着く。まさに、本は「心の栄養」と言われるゆえんです。

今の子供たちは、ゲーム機やパソコン、スマホの普及で、じっくりと本を読むことが少なくなってきたのではないかと危惧しています。やっぱり、今こそ「読書指導」です。本校では、読書の秋にちなんで、10月30日から11月24日までを「読書週間」とし、おすすめの本の紹介や読書ビンゴなど、様々な取組が行われています。ぜひ、この秋に、子供たちに読書の楽しさを体感させ、本校に「読書大好き」な子をもっともっと増やしていければと思います。